やまがたの山語り 上映×トーク

山の恵みの映画たち 2019

山形国際ドキュメンタリー映画祭2019 プレイベント

森羅の光陰を巡る旅

2019 3/15(金)16(土)17(日)

フォーラム山形 山形市民会館南となり 023-632-3220

photo：槍ヶ岳での御来光（槍ヶ岳山荘前にて） 撮影：浦山克彦

2019

縄文にハマる人々　2D／3D

ゲストトーク

監督：山岡信貴／ナレーション：コムアイ／日本／2018／103分

ついに出ました！「縄文」の謎と魅力に迫るドキュメンタリー。私たちは縄文時代の実態をほとんど知らない。でも、いま何故か妙に気になる！

縄文研究の第一人者 小林達雄ら考古学・民俗学の専門家たち、いとうせいこうやグラフィックデザイナー 佐藤卓など文化人・アーティスト、人工生命研究の池上高志など多彩な頭脳と感性が「縄文」を熱く語る。あの縄文の女神も登場！

監督は「死なない子供、荒川修作」の山岡信貴。ナレーションは「水曜日のカンパネラ」のコムアイ。

早池峰の賦

演出：羽田澄子／日本／1982／186分

いま、語り問う。人間の祈りとは、人間の暮らしとは。そして、ふるさととは。

修験者によって伝えられ今も残る山伏神楽に、人と山との細やかで強い絆を見る。みちのくの霊峰早池山麓に生きる人々の暮らしを四季の移ろいの中で詩情豊かに描いた、日本を代表するドキュメンタリー映画作家 羽田澄子の心に残る長編傑作。

タイマグラばあちゃん

監督：澄川嘉彦／日本／2004／110分

タイマグラは早池峰山の東の山麓にある、戦後の開拓村だ。10軒ほどがあったらしいが、澄川監督が訪れた時には1軒だけだったという。しかし、そこに住むばあちゃん(向田マサヨさん)は、山の恵みを享受しつつ豊かに暮らしていた。

電気はなくとも、水は湧き水、風呂は薪、味噌は畑で穫れた大豆で造るという具合・・・。

昭和63年、大きな変化が起きる。

緑はよみがえる

監督・脚本：エルマンノ・オルミ／イタリア／2014／76分

第一次大戦下のイタリア。雪深い山岳地帯に孤立した兵士たちは、劣悪な塹壕に身を隠し、砲弾に怯えながら、故郷の思い出だけを支えに任務についていた。そんな前線にある日、まだ少年の面影を残す若い中尉が送られてくる…。

父の戦争の記憶を引き継いだ名匠エルマンノ・オルミ監督が、戦争の愚かさと人間の尊厳を白銀の山々に静かに映し出す。

ディア・ハンター 4Kデジタル修復版 (PG12)

監督：マイケル・チミノ／出演：ロバート・デ・ニーロ／アメリカ／1978／184分

ベトナム戦争が泥沼化の様相を呈していた60年代末期。ペンシルバニア州の製鋼所で働きながら休日は山で鹿狩りを楽しむ親友マイケル、ニック、スティーブンに徴兵の報せが届く。凄惨を極める戦地で偶然の再会を果たしたものの、彼らを待っていたのは残酷な拷問と、心に深い傷跡を遺す戦争の狂気だった…。

第51回アカデミー賞作品賞ほか5部門に輝いた映画史に残る名作が、製作40周年を迎え、4Kデジタル修復版としてスクリーンによみがえる。

（フォーラム特別協賛作品）

©1978 STUDIOCANAL FILMS LTD. All Rights Reserved.

満山紅柿　上山 - 柿と人とのゆきかい

監督：小川紳介＋彭小蓮（ペン・シャオリン）／日本／2001／90分

故小川紳介が残した映像とメモを元に中国の彭小蓮が完成させた、愛らしい干柿をめぐる物語。

収穫、皮剥き、吊し干し…、小さな果実は人の手 から人の手へと旅をする。寒村の冬の収入源として始まった干し柿作りは、自然と人間の営みとの交錯点となり、里山に独特のリズムを響かせる。地域で柿を育み、柿が人々の心をつなぐ。

失われつつある里山の景色がスクリーンに蘇る。

海の産屋 雄勝法印神楽

ゲストトーク

監督：北村皆雄 戸谷健吾／ナレーション：寺尾聡／日本／2018／75分

東日本大震災の光景を見て、日本の神話にある国土が生成する前の混沌とした姿を思い浮かべた。震災から復興する雄勝神楽のドキュメンタリーを撮ることになって、始原の国造りの神話の話がほんとうであることにびっくりした。この神楽には、ヒトもムラも、零から出発させ、生まれ清まらせる力があることに、思いっきり気づかされた。すごい神楽だ。（監督より）

海-消えたプラスチックの謎

ゲストトーク

監督：ヴァンサン・ペラジオ／フランス／2016／53分

世界の海洋に浮かぶプラスチックの99%は行方不明と言われます。このプラスチックは、細かい断片となり、やがて眼に見えないマイクロプラスチックに。もし、このマイクロプラスチックが海の生物の体内に取り込まれたとしたら…？

私たちの食卓にいつかプラスチックが？　マイクロプラスチックの行方を科学者たちが追いかけます。

山〈モンテ〉

監督：アミール・ナデリ／イタリア、アメリカ、フランス／2016／107分

中世イタリア、南アルプス。屹立する岩山が日差しを阻み、枯れた大地には雑草すらまともに育たない。住民が次々に村を去り、周囲から異端視されるなか、祖先が眠るその土地になおも留まるアゴスティーノとその家族。しかし岩山からは容赦無く不幸の風が吹き下ろし、男は絶望の果てに槌を手にする…。

イランの巨匠アミール・ナデリ監督が描く、山と人間の壮絶なる対峙！

© 2016 Citrullo International, Zivago Media, Cineric, Ciné-sud Promotion. Licensed by TVCO. All rights reserved.

ヒマラヤの聖峰 ナンダ・コット征服

監督：不明／撮影：竹節作太／日本／1936／28分

1936年10月5日、立教大学山岳部を中心とした登山隊が、6867mのナンダコットに初登頂した。日本で初めてヒマラヤを征服した瞬間だった。

登頂から80年後の2016年、当時の35㎜フィルムが発見されデジタル化された。生々しい登攀記録とナレーションが感動的だ。標高がメートルではなく「呎」で表記されているのも面白い。

今回が初の映画館上映となる！

協力：毎日映画社

川はだれのものか　大川郷に鮭を待つ

企画・制作・演出：菊地文代、前島典彦／日本／2014／94分

新潟県は旧山北村、大川郷。遡上するサケを仕掛けに誘いこみ、カギで釣り上げる「コド漁」は、300年以上前からこの地に根付く伝統漁法だ。

近代化によって山や川の所有の概念が変化するなか、大川の人々は共同で川を整備し、仕掛けを作り、豊漁を祝う。そしてまた春には、育てた稚魚を川に還す。

清流を舞台に繰り広げられる、サケと人々の邂逅の記録。

標高8,163m マナスルに立つ

監督：山本嘉次郎／ナレーション：森繁久彌／日本／1956／97分

1953年にエベレストが登頂され、世界の目は8000mの未踏峰に向けられていた。日本山岳隊は最新の装備と準備で挑み、56年5月9日登頂した。60年前のことだ。

カトマンズから16トンの荷物を人馬で運ぶという、それ自体が登山だった。マナスルは「精霊の山」の意味、麓の人々の信頼は欠かせなかった。

森繁久彌のナレーションが心地よい。

協力：毎日映画社

富士山頂観測所

監督・脚本：柳澤壽男／日本／1948／21分　　朝日文化賞

福祉ドキュメンタリー映画で知られるドキュメンタリー作家柳澤壽男は他にも興味深い作品を多く残した。『富士山頂観測所』はその代表作。

零下30度の富士山頂で猛吹雪や霧氷と戦いながら、不十分な器材で気象観測を続ける観測隊員たちの日々はまさに苦闘の連続。だからこそ束の間の晴れ間や細やか喜びを分かち合う仲間たちの笑顔は格別。知られざる苦楽の日々を記録した記念碑的作品。

©TOHO CO.,LTD.

海に生きる　遠洋底曳漁船の記録

監督：柳澤壽男　樺島清一／日本／1949／33分　　文部大臣賞／日本映画技術賞

北九州の漁港を基地に東シナ海等を漁場として活躍する遠洋底曳漁船の乗組員たちの生活を漁場の困難な実態に寄り添いながら記録した傑作。

撮影班は1対をなす2艘の漁船と追尾撮影用の3艘目を行き来しながら底曳漁のあらゆる工程に迫り、強風や高波に揺れながら海上で躍動する人間たちの喜怒哀楽や待ちわびる家族を愛情深く見つめている。ダイナミックにして繊細！

©TOHO CO.,LTD.

関連作品　下記作品（武蔵野）は3月22日（金）～28日（木）の上映となります。「山の恵みの映画たち2019」前売券はご使用いただけません。

武蔵野 ～江戸の循環農業が息づく～

監督：原村政樹／日本／2018／111分

国木田独歩で知られる武蔵野は、約300年前、不毛の地から植林によって生まれ変わった広大な平地林。それを人は「ヤマ」と呼び敬ってきた。そこでは今も、落葉を集めて堆肥を作ることで微生物の豊かな土壌を保つ、自然の摂理を生かした循環農業が江戸時代から奇跡的に継承されている。

「いのち耕す人々」「天に栄える村」「無音の叫び声」の東北農業3部作で、一貫して自然に生かされた農の営みと奥深さを描いてきた原村政樹監督が、武蔵野地域で続く農業と人々の暮らしや思いを見つめ直したドキュメンタリー。

上映スケジュール

3月15日(金) ～21日(木)	連日 朝 10:00~11:43 ゲストトーク 3月16日(土)上映後	『縄文にハマる人々』(103分) ゲストトーク　山岡 信貴氏(本作監督)　金 寛美氏(陶芸家) **3/16(土)は3D版での上映となります。** 3D版をご覧になる場合、「鑑賞料金＋300円＋3Dメガネ代」が必要となります。 (3Dメガネ料金はメガネクリップ型300円、子供用メガネ100円となります。なおご持参の方はメガネ代は不要です) 前売券でご入場の際も「300円＋3Dメガネ代」が必要です。当日、窓口でお支払いください。
3月15日(金)	13:00-16:06	『早池峰の賦』(186分)
	17:00-18:30	『満山紅柿　上山 - 柿と人とのゆきかい』(90分)
	19:30-22:34	『ディア・ハンター』(184分)
3月16日(土)	13:00-14:15 14:15-15:00	『海の産屋 雄勝法印神楽』(75分) ゲストトーク　北村 皆雄氏(本作監督) 戸谷 健吾氏(本作監督)
	15:40-16:33 16:33-17:20	『海―消えたプラスチックの謎』(53分) ゲストトーク　金子 博氏(NPO 法人パートナーシップオフィス理事)
	18:00-19:16	『緑はよみがえる』(76分)
	20:00-21:50	『タイマグラばあちゃん』(110分)
3月17日(日)	13:00-14:47	『山＜モンテ＞』(107分)
	15:30-15:58 15:58-17:35	『ヒマラヤの聖峰　ナンダ・コット征服』(28分) 『標高8,163m　マナスルに立つ』(97分)
	18:15-19:49	『川はだれのものか 大川郷に鮭を待つ』(94分)
	20:30-20:51 20:51-21:24	『富士山頂観測所』(21分) 『海に生きる　遠洋底曳漁船の記録』(33分)

ゲストプロフィール

山岡 信貴氏
映画監督、プロデューサー。実験的なスタイルを貫きながら作られる多彩な映像作品は、海外での評価も高い。

金 寛美氏
陶芸家。舟形町で「舟形焼わかあゆ薫風窯」を主宰。縄文土器を現代に生かす活動も行なう。今回は山岡信貴監督との対談。

北村 皆雄氏
ヴィジュアルフォークロア代表。映画監督、プロデューサーとしてアジアを中心に数多くの作品を手がけている。日本映像民俗学の会代表。

戸谷 健吾氏
『海の産屋』で北村皆雄と共同監督。大学で民俗学・人類学を学び、国内の民俗芸能、自然や文化等のテレビ番組や映画制作に関わる。

金子 博氏
NPO 法人パートナーシップオフィス理事。環境保全や海のゴミや海岸漂着物の問題に取り組むスペシャリスト。

前売券 (関連上映にはご使用できません)

1回券...**1,100**円　4回券...**3,400**円　8回券...**6,000**円

4回券、8回券は複数人でご使用いただけます(分割使用可)。なお、当日は劇場料金となります。
前売券はフォーラム窓口、ドキュメンタリー映画祭事務局、市内プレイガイド等で発売中です。

会場 フォーラム山形
山形市民会館南となり 023-632-3220

主催：「山の恵みの映画たち」上映実行委員会
お問い合わせ： 認定NPO法人山形国際ドキュメンタリー映画祭　☎023-666-4480

本上映に関する最新情報は https://www.facebook.com/**yamagatari**/ よりご覧頂けます。こちらからどうぞ。